

## ⑩ Comments on Knowledge Acquisition and Learning

S.Kunifuji(富士通, 日本)

### 発表要旨

Dr.Houstonのresponseとして, この講演では, 日本における知識獲得の試みの内容が紹介された。

まず講演者であるMr.Kunifujiによって提唱された知識システムにおける知識ベースへの知識獲得の10過程, 即ち①問題の設定, ②既存技術の評価, ③知識源の同定, ④専門家モデルの同定, ⑤ユーザモデルの同定, ⑥知識表現の選択, ⑦知識の抽出, ⑧知識の変換, ⑨知識ベースの管理, ⑩知識の評価, とその内容が示された。次に日本国内の知識獲得ツール(EXPERT MODEL,ES/SDEM,SAKAS, CTAS,MISAKOなど)が紹介され, 続いてMr.Kunifujiなどによって行われている仮説推論を用いた知識獲得システムについての説明が行われた。また, 日本国内で行われているもう1つの試みとしてKJ法を利用した知識獲得の方法についての説明も行われた。そして最後にこれから目指す新しい知識獲得システムの概要図が示された。

### 質疑応答

講演の最後にMr.Kunifujiから, 先のDr.Houstonの講演に対して, ①ETS/AQUINASにおけるclassification法の他の分野での応用について, ②現在のAQUINASのimplementationの内容について, ③AQUINASのIntegrated Systemのイメージについて, の3つの疑問点が示された。但し, これについては特に議論されなかった。